



福岡県小郡市大板井1143-1
電話番号 0942-72-7221
FAX 0942-72-7222



発行人

こぐま福祉会編集委員会



<http://www.koguma.ed.jp>



保育士
さと みすみ
橋田 里弥

皆さん、こんにちは。地域支援部の地域療育課で保育士をしています。橋田里弥と申します。

相手に話をすればするほど「それで？」という顔をされる私、文章を書いたり、自分の思いをまとめて話したりすることがとても苦手で、今回初めて冒頭文を書くこととなり、とても緊張しています。非常にまとまりがない文章ですが、少しでもお付き合い下さい。

始めに自己紹介を：

私は、二十七年前、筑後川の下流にある大川市に生まれました。生まれた時は小さかったのにな…と母によく言われます。幼少期、祖父から毎日のように〇〇ヨーグルト&〇〇キャラメルをもらい、すくすく大きく育ちました。今でも乳製品は大好きです。その後、二十四年間に大川市で過ごしました。我が家のゆつたり、のんびりとした雰囲気、家族が大好きで、自立したいと思いつつも離れられなかった私。こぐま福祉会に入社し寮で一人暮らしをした時期もありましたが、過去最短記録で退寮、実家に戻りました。そんな中、

筑後川の下流から少し登った所、北野町に住む夫と出会い結婚、三年前に大刀洗町での生活をスタートしました。あつという間に三年目…もはや新婚、新妻ではなくなっていました。ゆつたり、のんびり、居心地のいい家庭を目指し夫と頑張っています。

私が保育士を目指したきっかけ：

十五歳の頃、早く就職したい！その一心で、工業高校に入学しました。「手に職を」と考え進んだ道でしたが、化学にまったく興味がなく、(今になって思えば、そんなことは入学前にわかっていただろう！と…)ろくに勉強もせず、バイトに明け暮れていたそんな夏休み、授業の中で職場体験が行われました。「どこでもいから行ってみたい職場を考えておく事、交渉に行くから任せろ」そう先生に言われ、友人は〇〇工場などを選択する中、どうせ行くなら、近い将来就くであろう工業系の職場以外がいいな…そう思ったのがきっかけで保育園に行こうと決めました。担任の先生に伝えると「保育園ね…」と苦笑いされた事、柔道部の顧問をされていた担任の先生が大きな身体を丸め、汗だくで工業とは畑違いの保育園に交渉に行ってくださいました。覚えています。職場体験中はたくさんの子とも達とひたすらあそび、楽しい日々を過ごしました。

そんな中、あまり笑顔を見せてくれないダウン症の男の子と出会い「保育園楽しくないのかな…なんで

だろう」と感じ、とても心に残ったこと、また子ども達とあそびたいと思ったことがきっかけで、保育や、障がいをもつ子ども達についてもっと知りたい、そう考え、短大に進学する事にしました。

職場体験、地域の保育園で感じた

「なんでだろう」から約十年、様々な出会いや縁が重なって、地域療育課で保育士として、子ども達の、「地域で育ち、暮らす」に関わる仕事をさせて頂いていることに感謝しています。

こぐま福祉会三十周年：

先日行われた『こぐま福祉会三十周年記念式典』改めて三十年の歴史と、たくさんの方に支えられてこぐま福祉会があることを感じる事ができました。利用者の方、保護者の方、地域の方、関係機関の方、そして大熊理事長、秀子先生を始め、こぐまの大先輩方に感謝です。

それで…？

最初に宣言した通り、まとまりのない文章になってしまいましたが、これまでの出会い、縁に感謝し、これからも出会い、縁を大切に過ごしていきたい、そして、私自身も誰かがあってよかったと思ってもらえることができるように頑張りたいと思います。

こんな私ですが、これからもよろしくお願ひ致します。



避難訓練

月に一度の頻度で避難訓練を行っています。

非常ベルが鳴った後の「放送」に耳を傾け、出火場所を確認し避難経路を瞬時に判断して迅速に避難することも訓練要素の一つとして「出火場所」は事前に告知することなく行っています。

火事を起こさないことが大前提ですが、避難訓練では人命救助を第一に危機感や緊張感を持って実施できるように創意工夫しています。

訓練しておく事でいざという時の準備は万全と

言いたいところですが、実際の炎や煙が立ち込めているわけではないので、臨場感がなく、意識が低下してしまう傾向にもあるのも正直なところ



そのための防火管理委員会では、消防署員立会いや防災ビデオの活用、救急救命講習会等を企画し、未然に防ぐ手段や起こってしまった時の対応策など常日頃起こる可能性があることと想定して意識を高めています。

(防火管理者 北岡)



こぐま療育セミナーのご案内

四月より保育所等訪問支援事業や障害児相談支援事業が制度化されました。障害のある子どもが地域生活を主体とし、その中で様々な支援を受けながら、その子らしく豊かな生活を送ることが保障されます。それに伴い、障害児施設、保育所・幼稚園、学校、行政等の役割も、今まで以上に大きくなると思われ

ます。そこで本年度も、子ども達をより理解し、様々な生活の場での支援の充実を目的にこぐま療育セミナーを開催します。当園の職員による講義のほかに、特別講演として、長年にわたり御活躍されています相談支援専門員の金丸博一先生をお招きし、「障害のある子どもを地域で支え、豊かな生活を送る為に」をテーマにお話頂きます。今後の支援のあり方について、有意義なお話が聞けるものと思えます。是非お知り合いの方にもご案内頂き、ご参加ください。



《日時・会場》

八月十七日(金) 十三時～十六時半

八月十八日(土) 九時半～十七時半

小郡市総合福祉センターあすてらす

《対象者》教諭・保育士・指導員・ヘルパー・保健師・学生等

《定員》七十名 《受講料》四千元

《申し込み方法》

事前にFAX、メールでのお申込みが必要

です。詳細は案内(ホームページに掲載)を

ご覧頂くか、担当までお尋ねください。

(研修セミナー委員 白水)

食育についての学習会

《日時》六月二十九日(金) 十時～十一時半

《場所》アリーナ棟

《講師》元気クリエーター 中村忠和氏

《内容》みんなの館 薬膳レストランシェフ(こぐまでも体に良いお弁当を時々販売して

います)より、食事の大切さ、安全性についてお話を

していただきます。沢山のご参加をお待ちして

います。



(研修委員 田中亮・黒木)

夏休みお預かりのご案内

夏休み期間中の小・中・高校生・十八歳以上の方の日中一時預かりを実施いたします。

《期間》七月二十四日(火) ～ 八月三十一日(金)

※日・月曜及び《八月十二日(日)》～ 十五日(水)は休園です。

《時間》平日：九時～十六時 土曜：九時～十七時

《場所》アリーナ棟

《申し込み締め切り》七月七日(土)

締め切り後に日程・人数の調整を行います。ご希望に添えない事もありますが、ご希望に添えない方も、今年度の契約が済みでない方は、事前の契約が必要となります。

(日中一時支援担当 山口珠)

特別支援学校見学の案内

《対象》平成二十五年度就学予定のお子様を持つ保護者。

《申し込み方法》就学に関するアンケート内に学校見学の申し込み用紙を添えておきますので、質問事項にお答えの上お申し込み下さい。

●小郡特別支援学校(現地集合) 六月五日(火) 九時～十一時

●久留米特別支援学校(現地集合) 六月七日(木) 九時半～十一時

●太宰府特別支援学校 (八時五十分)こぐま学園集合出発 六月十四日(木) 十時～十一時半

*学校の駐車スペースが少ない為、こぐま福祉会のバスで現地まで送迎致します。

※なお、田主丸特別支援学校、筑後特別支援学校につきましてはご希望がございましたら日程を調整させていただきますのでご相談ください。

※居住地域の校区の特別支援学校見学のみとさせていただきます。

ご不明な点がありましたら、担当者もしくは相談支援専門員までお尋ね下さい。(相談支援専門員 久保山)

行事予定

八日(金) 避難訓練

二十九日(金) べあクラブ社会体験 保護者学習会

『食育について』

皆様を支えられ、『そら』は100号を迎えました。今後ともご愛読、ご協力いただきますよう、宜しくお願ひ申し上げます。(そら委員会)

八日(金) 避難訓練

二十九日(金) べあクラブ社会体験 保護者学習会

『食育について』

皆様を支えられ、『そら』は100号を迎えました。今後ともご愛読、ご協力いただきますよう、宜しくお願ひ申し上げます。(そら委員会)

八日(金) 避難訓練

二十九日(金) べあクラブ社会体験 保護者学習会

『食育について』

皆様を支えられ、『そら』は100号を迎えました。今後ともご愛読、ご協力いただきますよう、宜しくお願ひ申し上げます。(そら委員会)

八日(金) 避難訓練

二十九日(金) べあクラブ社会体験 保護者学習会

『食育について』

皆様を支えられ、『そら』は100号を迎えました。今後ともご愛読、ご協力いただきますよう、宜しくお願ひ申し上げます。(そら委員会)

八日(金) 避難訓練

二十九日(金) べあクラブ社会体験 保護者学習会

『食育について』

遠足行ったよ

こぐま☆

4月25日(水)にこぐまの遠足で、久留米の中央公園と青少年科学館に行ってきました。

公園に着いた時に、小雨が降っていて、予定していたレクリエーションを早く切り上げて科学館の中で過ごしました。館内では乗り物ランドが開催されていて、色々な乗り物にお母さんと一緒に乗り、楽しむことができました。

昼食も館内で食べることができ、お母さんが子どものために工夫して作ったお弁当を美味しく食べていました。

午後はスタンプラリーをしながら、館内を回って、子どもも大人も色々な体験をすることができました。

今回、天候にあまり恵まれませんでしたでしたが、子どもたちやお母さん達の笑顔がいっぱい見られた遠足になりました。もし興味があれば科学館へ行かれてみて下さい。(保育士 山村)



ゆう☆

4月20日(金)、ふれあい遠足で夜須高原記念の森に行ってきました。あやしい雲行きでしたが、みんなの思いがパワーとなり、お天気も味方してくれ、外で元気いっぱいあそぶことができました。

大きな遊具を前に、目をキラキラさせて走っていく子、ちょっとビックリする子、いろいろな表情がみられました。高いところまで登り、長い滑り台を下りてくるときは達成感の笑顔でニコニコ。近くに小さめの遊具もあり、それぞれのペースであそぶことができました。

愛情たっぷりのお弁当も食べ、大満足。子ども達、お母さん達の心に残る遠足になっていれば嬉しいです。

子ども達の一つ一つのチャレンジに私たちも感動させてもらった一日でした。(保育士 大倉)



食中毒に気をつけよう

食中毒は家庭内でも意外に多く発生しています。今の時期は、次のことに注意してください。



- ☆ 生ものはできるだけ火を通しましょう。
- ☆ フキン、まな板、包丁、食器などの衛生に気をつけましょう。
- ☆ 冷蔵庫を過信しない。
- ☆ 手洗いを励行しましょう。
- ☆ 夏場に多くみられる細菌性の食中毒

〇一五七

感染力が強い

サルモネラ

卵での感染が多い、特に幼児は

腸炎ビブリオ

魚介類に注意

カンピロバクター

鶏肉に注意、子どもにも多く発生

食品を使って食中毒予防

玉葱、生姜、ヨーグルト、にんにく、ハーブ等抗菌作用があります。

★食中毒にかかったら早めの受診

はもちろんです。脱水症状になりやすいため、お茶等でこまめに水分補給をしましょう。

(管理栄養士 一木)

こぐま三十周年式典、快晴

五月十二日(土)、行事に雨を呼ぶ男と有名な岸園長が居るにも関わらずなんと天気は快晴。三十周年の節目をお日様もニコニコとお祝いしてくれました。ご来場いただいたのはお子さん、大人合わせて約五百人。その日のこぐまは、保育室も、園庭もアリーナもあつちもこつちも熱く燃えるお祭り騒ぎ!



★お祭り男の栗毛のくまちゃんには素敵な風船の贈り物+閉会式では子ども達と熱狂のダンスを披露!
★スタッフ手作り食事メニューは出来たて熱々やきそば&たこやき・大好きカレー・愛情溢れるだご汁・大人も満足フルーツフルト・スイーツは綿菓子&フルーツポンチ&カップケーキ・締めには目出度いお赤飯!
★ペタンペタンお餅つき・トントンガシガシ竹とんぼ作り、共に、家族やお友達と達成感、やったぜ!
★通園のお友達は、いつもの、でもちよつと特別メニューの保育で笑顔百点満点・他にもサックス、よさこい、講演会、記念制作等、超盛り沢山に宴は続いたのでした・・・。
福祉会職員一同からみなさんへのささやかなお礼でした。三十年分のお礼には足りないと思いますが、職員一同、これからも自己研鑽に励みもつともつとみなさんのお役に立てる「こぐま」に成長していきます。
これからもよろしくお願ひします。

(児童支援部 福田)

心の窓



ほしぐるーぷ
こが ねる
古賀 亘くん

現在、小学三年生の亘は、平成十五年七月に生まれました。生まれてすぐ心雑音があることが分かり、その後の検査で染色体異常であると告げられました。それからは、ネットや本で情報を集める毎日でした。

この子は「喋るのだろうか：」「いつ歩くのだろうか：」と不安な日々を過ごしたことを思い出します。思い描いていた子育てとは違い、戸惑うばかりでしたが、亘は、私の気持ちとは反対にゆっくりと一歩ずつ前へ進んでくれました。今思えば、ひとりひとり違って当たり前なのに焦っていたのかもしれない。

療育は、一才半から通い始めました。療育へ通い始めてからは、先生やお友達と関わることで、言葉も増え、動きも活発になっていきました。何より、家の中で親子ふたりで向き合う生活から外へ出ることで、親子共々とても刺激になり毎日が楽しいものに変わっていききました。



三才からは、保育園へ通い始めました。何度も園庭開放へ行き亘のことを知ってもらいました。入園してからは、お友達に助けってもらいながら毎日楽しく通いました。先生方は亘に対して「自分で出来た」「やれば出来る」という気持ちを持たせてくれました。頑張る力が身についたように思います。

こぐま学園では、ほしグループに通っています。亘は、こぐまへ行く日になると「今日はこぐまさん？」と言ってこぐまへ行くのを楽しみにしています。学校で頑張っている亘にとつてこぐまは息抜きの場所なんだと思います。

亘は、とても人なつこくて、社交的です。亘がいることでその場が和みます。そんなパワーを持っている亘にまわりの私たちが助けられることが多いです。二才下の弟がこの春一年生になったのですが、弟のことが心配で一年生の教室へ見に行ってお兄ちゃんらしいかと思えば、弟に勉強を教えてもらうこともあり：これからも兄弟で助け合ってくれればと思っています。

振り返ってみるとあつという間の九年でした。亘がいたから出会えた方々に“感謝”しながらこの先も親子で成長していきたいと思っています。まだまだ高い壁があると思いますが、その壁にぶつかる度に親子で悩み、解決していきたいと思えます。今後とも宜しくお願い致します。

(古賀 亘の母)

障害者支援部 紹介♪

●生活介護事業所 べあくら

平成二十四年四月より、法改正に伴いべあくらには、重心児者通園事業所から生活介護事業所に移行しました。定員十三名で、毎日賑やかに過ごしています。まずは、健康第一に必要な医療的ケアや二次障害予防・機能の維持向上を目指して訓練にも力を入れています。生活の場である為、利用者の方が楽しく過ごせる事と四季を感じ心豊かに、色々な体験が出来充実感のある日々になればと願っています。

成人しても、日々の積み重ねにより出来る事が増え、沢山の可能性を秘められている事を実感しています。

●生活介護事業所 愛らんど

横尾

(サービスマネジメント)

愛らんどは、障害程度区分3以上で十八歳以上の方々を通っている日中活動の場です。作業をしたり、運動をしたり、時にはレジャーを楽しんだりしています。

そんな中、愛らんどでは昨年度から紙を再生したはがき作りに挑戦しています。



ています。

一人ひとりできることが違います。が、工程を分担して行うことで、その能力をできる限り活かす、それぞれが役割を持つことができ、それでいてエコという試みです。



近い内に販売まで行い収入を得ることが出来る様になればと考えています。

(生活支援員 櫻井)

●就労移行支援事業所 Work Step

私たち Work Step は、一般就労を目指し、日々訓練を頑張っています。

午前中は、二時間続けてボールペンの分解と組立作業を行っています。午後は、二時間半ぐらい個別活動やグループ活動、その折り込み作業やTONBYの作成などの依頼業務を行っています。



また、自分達で計画を立てる余暇活動や地域のゴミを回収する奉仕活動を行っています。他にも職場見学や職場実習を行い、一般就労へ向け、日々努力しています。

(職業指導員 吉浦)

